



## 1. 開会

## 2. 前回の議論のふりかえり

【事務局】参考資料1 論点別意見整理について説明。

### ○運営ビジョン作成に向けた基礎調査等の経過

- ・ 他館へのアンケート調査、「立地条件について」大西委員・松本委員より、「料金体系の工夫について」平田委員から意見がありそれを網羅してアンケートを実施した。

### ○使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案

- ・ 使命(ミッション)案について、「久保惣記念美術館設立の背景への言及による愛着・誇りの醸成、美術館の必然性」について平田委員、久保委員、井上委員長より、ミッション前文のところに書き込んだ方が良いのではとの意見を頂戴し、現在進めている。
- ・ 「地域第一義と普遍的な価値」について松本委員、「子ども・次世代への教育」について高橋副委員長、井上委員長より意見を頂戴した。
- ・ 「文化的処方、地域社会との接点としての美術館」、「来館者全てが心豊かに帰ることができる美術館」について平田委員から意見を頂戴した。
- ・ 基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案について、「久保惣記念美術館の価値・独自性」について、もう少し尖った表現でも出していった方が良いのではという意見を頂戴した。「国内外からの来館者」「持続可能性のある美術館」としてSDGsの観点から平田委員より意見を頂戴した。
- ・ この10年間先行的に取り組むアクションとして、現在ワーキンググループも進めている。「インバウンドの戦略、市民や市内店舗、有償ボランティアの関わり」ミックスしながら取り組んでいってはどうかということで大西委員、井上委員長から意見を頂戴した。
- ・ 「企業と美術館との関わり」高橋副委員長から商工会議所のコラボレーションの提案や、西棟・茶室の活用もできるのではないかという意見を、また井上委員長からも意見を頂戴した。
- ・ 「サテライト美術館」については大西委員からご考察を含めた久保惣のPR効果と、インバウンドも取り込めるのではないか、ボランティアの活用ができるのではないか等の意見を頂戴した。
- ・ 「組織マネジメントの強化」については井上委員長から学芸員が核になるので、体制の強化を考えることが必要との意見を頂戴した。

## 3. 運営ビジョンの章立て案について

【事務局】資料1 章立て案について説明。

- ・ 当委員会での議論を踏まえ、最終的に運営ビジョンとして冊子としてまとめる。その全体イメージを把握していただけるよう、目次案として提示する。
- ・ 第1章では、策定の趣旨や位置づけと構成、実施推進期間等ビジョンの骨格について示す。
- ・ 第2章では、策定の背景～当館の歩みとして、概況と沿革、取り組みと、特色、現状と課題をまとめる。
- ・ 第3章では、皆様方から重点的にご議論をいただいている、使命、基本方針、取組方針につい

て、記載する。

- ・ 第4章では、ビジョン推進のための取り組みについて、優先順位を付けながら実行すべきことについて列記する。
- ・ 参考資料を加え、最終的に冊子として作成する。なお、より分かりやすく伝えるために、冊子形式のほか、A3版の「運営ビジョン概要版」を作成する予定。

#### 【久保委員】

- ・ 何年か前に一般の市民の方から、貝合が寄贈されたが、和泉市民からの寄贈の窓口や流れ、どこに持って行ったら良いのか。また価値も分からない人も居るのではないか。そういった市民の入り口、そこに持ったことによって価値が上がるという点も分からない人も多いのでは。

#### 【事務局】

- ・ 貝合とはハマグリの貝の柄を合わせて使った平安時代からの遊び。数年前に地元の旧家より、江戸時代の貝合の作品を久保惣美術館に寄付したいという申し出があった。一度調査に伺い、美術館として展示する内容のものと確認ができ、所定の手続きを進め市の財産として美術館に収蔵し展示活用している。
- ・ 本日も1件問合せがあったが断っている。美術館に聞けば何か分かるかな、といった方からの電話問い合わせがある。
- ・ 美術館で寄贈を募っているからお申し出くださいというスタンスはとっていない。

### 4. 議題

#### (1) 使命(ミッション)、基本方針(ビジョン)の修正案の確認

【事務局】事務局より資料2を説明。

##### ○使命(ミッション)

- ・ 前回ご提示した①～③の柱の内容・方向性については大きく変更することなく、各委員からいただいた、キーワード、さらに付け加えるべき要素を加味して文章を変更。主に赤字部分が変更点になる。
- ・ ①については、松本委員の「人類普遍の財産の一部を持っている。それが和泉の地にあるという、普遍的な価値」、平田委員の「文化的処方、地域社会との接点としての美術館／来館者全てが心豊かに帰ることができる美術館」という意見を踏まえ、前回「多様な価値観を伝え・育む美術館」を今回「普遍的な価値を伝え、多様な価値観・心の豊かさを育む美術館」とした。それに合わせて説明文章についても同様のキーワードを盛り込んでいる。
- ・ ②については、主に高橋副委員長の「小学校低学年の頃からしずくを落とすように美術館のことを知ってもらおう」、井上委員長の「文化を享受するのは小さいころから享受できる能力を養わないと身につかない」などの「子ども・次世代への教育」の観点からの意見を踏まえ、前回「創造の拠点となる美術館」を今回「未来の和泉を創造する美術館」とした。それに合わせて説明文章についても同様のキーワードを盛り込んでいる。
- ・ ③については、久保委員からの「和泉市が成り立つ背景、繊維業界が泉州企業を支えた歴史があり久保惣記念美術館が残っている／必要性の腹落ち感、美術館があることの必然性」、平田委員の「この地域という場所、久保惣記念美術館がここにあることにより愛着をもってもら

ことを掲げる必要」、松本委員の「対地元、対地域、それに対するケア／地域第一義」などのご意見を踏まえ、前回「まち・人を繋げる美術館」を今回「まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館」とした。それに合わせて説明文章についても同様のキーワードを盛り込んでいる。

- ・ 成立の背景を含めた独自性や地域性を打ち出すため、「和泉」という言葉を意識して使っている。

#### ○基本方針(ビジョン)

- ・ 使命に盛り込んだキーワード、要素に加え、さらに平田委員の「久保惣記念美術館の価値・独自性／国内外からの来館者／持続可能性のある美術館」の意見を踏まえ、前回「美術館とまちが融合したミュージアムタウンと、拠点となる美術館の魅力を伝え・育むため、「美術館のリソースを最大限に使いこなす」ことにより、持続的な成長を果たします。」を今回「今ある美術館のリソースを最大限に使いこなし、地域に深く根差すことで、まちと美術館が融合したミュージアムタウンの拠点として国内外の多様な人々が集い、和泉の価値と創造性を高める循環を生み出し持続的な成長を果たします。」とした。それに合わせて説明文章についても同様のキーワードを盛り込んでいる。

#### ○使命(ミッション)

##### 【平田委員】

- ・ 「まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館」という素晴らしい言葉を探し出していただいた。
- ・ 和泉の産業遺産の久保惣という、久保惣が出来上がった背景は、章立てを見ると第2章の概要と沿革で触れられているという認識でよいのか。

##### 【事務局】

- ・ その通りである。手厚く全体的にビジョンを説明するにあたって、そこを踏まえた章立てとした。

##### 【大西委員】

- ・ ミッションの1で普遍的な価値は芸術を示しているが、普遍的な価値で多様な価値観を形成するというのが、どう繋がるのかが分からない。
- ・ 言葉的に引っかかったのが、「普遍的な価値」と「多様な価値」とは相反するものではないか。

##### 【井上委員長】

- ・ 普遍的という言葉は哲学的な言葉であるが、誰が見てもどう考えても価値を持っているというような普遍的な価値で世界遺産条約でも使われている。「普遍的な価値を伝え、多様な価値観・心の豊かさを育む」ということで、前半の伝えのところで1度切れて後半が別の文章と言う事ではないか。
- ・ ミッションとしては長い文章ではないので違和感を感じるかもしれない。

##### 【事務局】

- ・ 井上委員長の説明の通りである。収蔵品・庭園・茶室も含めてそれぞれに普遍的な価値観があり、その価値を受け取る側も様々な価値観を持っている。人種・年代・感受性も含めて多様な

価値観の中で受け取ってそれが心の豊かさを育むということで考えている。

#### 【松本委員】

- ・ ①、②を短くキャッチコピーのように打ち出すのは少し分かりにくいと感じる。ごつごつとしていて言葉としてはもうひとつこなれないのか。ずっとストレートに入るものがないのかという感想をもった。
- ・ ②の「未来の和泉を創造する美術館」、極端な事を言うと美術館が和泉の未来を主導してつくっていくのかと、言葉だけで見るとこの部分がパッと見て訴えかける部分ではないか。
- ・ ③は分かりやすく、良い言葉である。優しくふんわりと、なおかつ言葉も陳腐ではない。
- ・ ①から普遍的な価値を抜いてはどうか。普遍的な価値はその前提にあるので。いきなり普遍的と来るとうっと、引くような印象がある。

#### 【井上委員長】

- ・ 使っている言葉が哲学的な言葉もあり、特に普遍的という言葉、未来の和泉を創造する、という言葉もあるので委員の方の「分かりにくい」という意見は共感できる。
- ・ 一方で自身の専門である博物館学だと、美術館は社会の課題を取り上げて議論をする場という考え方もあるのでそれが創造という事に繋がっていくという考えもできる。
- ・ ①の普遍的な、というのは一般の方にとっては馴染みにくいのでは。②は自身の博物館学の研究の世界ではすんなりと腹に落ちた。言葉に対する皆さんの感覚があるので、できれば開いた言葉・腑に落ちる・入る言葉に変えることも一つの案だと思う。
- ・ 修正をしてより良くなっている。あとはどう決着させるか。普遍的という言葉はもう少し開いて「世界中だれが見ても価値があると考えられるような」と言い換えることもある。この文章にはそぐわない。

#### 【高橋副委員長】

- ・ 頭が固くなるような印象を受けるので、市民がぱっと見て、目が留まるような優しい簡単な感じでも良いのではと思う。かといって簡単にするのもどうなんだろうと。
- ・ 随分と最初に見た時よりは分かりやすくなっている。①も②も良いなと思う。特に③は好感を持った。

#### 【井上委員長】

- ・ 委員の方のお声を受けると、①の冒頭の「普遍的な価値を伝え」の部分を省いて「多様な価値観・心の豊かさを育む美術館」とするのが良い。

#### ○基本方針(ビジョン)

##### 【松本委員】

- ・ 内容はよく読むと分かるが、一読すると文章が長すぎるので普通には読めない。二つに分けるかももう少し簡潔にできないか。一つの文章で言い切るには理解が厳しい。
- ・ 青色の枠内のビジョンと下の文章のリンクが分かりにくい。例えば、一ポツ目の下の文章は終わり方が「…必要とされています。」でそのあとの着地がない。上のどこにリンクするか関係

性が分かりにくい。

#### 【井上委員長】

- ・ 四行なのでせめて二行ならないか。ミッション・ビジョンで表現の仕方が違う。ミッションは①②③の見出しの部分に更に書いてあるのと、ビジョンは青枠内に書いて更に枠外に詳しく、という構成となっている。
- ・ 青枠内の文章の部分を一般市民の方にすっと入る理解しやすい文章にする必要がある。
- ・ 最初の二行を短くして、国内外…のところから始まる文章はこのまま使う、というのはいかがでしょうか。
- ・ 冒頭の「今ある」は必要ないのでは。

#### 【大西委員】

- ・ 他の言葉では置き換えられないものもあると思う。一案だが、伝えるという事であれば絵などがあり視覚的なもので伝えておいて、その後に文章があるのも有りではないか。

#### 【久保委員】

- ・ ミュージアムタウン構想があり、そのワードに繋げていきたいので文章がおかしくなっているのでは。もう一度整理して結果的にはビジョンになると思う。ミュージアムタウンに行く一つの過程で40周年がある。その一部でもありながら、主語ではないからおかしくなるのでは。
- ・ 市民に対してミュージアム構想について広げており、言い続けているしそのキーワードは外せないが、市民にとってはミュージアム構想が分からない方もいるのではないか。
- ・ ミュージアムタウン構想が何であるかが大前提にあり、そしてそれを繋げたい。

#### 【事務局】

- ・ 絵などを入れてわかりやすく伝えるという手法としてはあると思うので、検討したい。
- ・ 「ミュージアムタウン」という言葉を用いているのは和泉市ならではの取り組みであるためである。
- ・ 青枠内の文章について、下の文章の締めくくりについて、意見を踏まえて修正をかけていきたい。
- ・ リソースを使いこなすとか、ミュージアムタウンとか、議論した言葉を盛り込みすぎているところが長くなって分かりにくくなっている。主語・述語を整理したうえで再度提案する。

### (2) 取組方針(コンセプト)案の内容について

#### 【事務局】事務局より資料3を説明。

- ・ 根幹・本質の磨き上げとして3つ挙げている。
- ・ 「1. 美術品の収集、保存・活用」の取組項目として、①美術品の体系的な収集・充実、②美術品の適切な保存、③デジタルアーカイブの推進・活用。
- ・ 「2. 調査・研究の充実」の取組項目として、①専門性を高める取り組み、②専門性を支える人材の確保、③調査・研究の成果を伝える出版物の発行。
- ・ 「3. 展覧会・教育普及の充実」の取組項目として、①特別展・企画展の充実、他館との連携強化、②展示環境の整備、PRスペースの確保、③学校との連携、美術に親しむ機会の提供。

- ・ 根幹・本質を伝えるとして「4. 伝えたい人に「伝わる」広報・発信」。その取組項目として①市広報紙への掲載、②SNS等の充実、③関係機関への情報提供、④広報資料の提供。
- ・ 地域、社会との多様な関わりとして、2つ挙げている。
- ・ 「5. 多様な主体との連携協力、パートナーシップ」、その取組項目として①市内の教育機関との連携、②市内の企業家との連携、③和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアムとの連携、④国際交流機関との連携、⑤医療・福祉機関との連携。
- ・ 「6. 地域活性化：地域貢献、交流促進、観光振興」、その取組項目として①施設を活用した来館者層の拡大、来館機会の創出、②インバウンド向けの取組展開。
- ・ 根幹・本質を支える基盤整備として、「7. 経営、環境、施設整備」、その取組項目として①収益の向上、確保、②来館者数の確保、③民間活力を生かした運営、④多様な主体・機関との連携協力、⑤施設のリニューアル。

### 【久保委員】

- ・ メトロポリタン美術館で、ゴッホの肖像画の裏面にある女性の似顔絵を見せる企画が人気ですごい来場者だった。普段見れないところのアイデア。額、裏面、時代背景、ゴッホの生活環境、使っている絵の具のレベル等の説明だった。
- ・ この間の中之島香雪美術館もそうであるが、一般的な絵の解説ではなく、伝え方が変わってきている。深く入っていけるような見せ方に変わっている。
- ・ モネの絵がアーティゾン美術館とペアだと思っていたが、DIC川村記念美術館とペアで連作であって時代背景になっている。そういった作家のPRの仕方を考えないといけない。展示方法も変わっていている。見せ方が変わってきている。
- ・ 今回の中之島香雪美術館を見ていて雰囲気ガラッと変わった、全然違う美術館のようだった。あれだけの来場者を呼んでるのが不思議だった。何か一つで変わる。
- ・ メトロポリタンもInstagramで発信している。富士山とローソンのケースの撮影スポットがニュースになったが、私たちが考えていた美術館での真面目な説明とは違った面。
- ・ 和泉市に人を呼ぶのであれば、違う見せ方を入れていく方が紐づくのではないか。来場者が多い所はテーマと表現の仕方が変わってきている。
- ・ 浮世絵を父が購入した時、トヨタ自動車の技術者の方は正面が見たいのではなく裏面に興味をもった。どういう順番で色が刷られているのか、なんで木目が紙に写っているだろうか等。ケントの事や書いてない事への関心や質問があった。私たちが伝えたいことの見方と、美術館が一般的にしている展覧会の見方と変わってきている。

### 【井上委員長】

- ・ オーソドックスな見せ方とは違う、視点をずらして見せると言う事が、知りたいと思う人の知的好奇心を刺激している。

### 【事務局】

- ・ 美術館、博物館の工夫や苦勞を重ねている所。工夫したとしてもあまり反応がない場合もある。裏を見せる、一步を踏み出す違いというのは昨今の差なのかと感じる。
- ・ ビジョンの目玉・方針として、現在の展示は、年間を通じての常時展示が新館で行われている

が、新館に入っていたいただいたお客様に企画展を見ていただくことを考えている。一つ視点が変わるのではないか。

- ・ 個々の美術品に興味を持ってもらう、より深く入ってもらうための工夫・展示は単に裏返せば結構簡単にできてしまうこともあれば、設えが必要な事もある。設備が必要な事があれば 50 周年に向けて計画に入れていきたい。
- ・ 学芸員の普段の勉強や工夫の仕方に掛かってくるが、お客さんが何を見たいのかについても研究をしていく。新館の見方を変えていく事をビジョンのコンセプトの中で目玉にしたい。

#### 【井上委員長】

- ・ 中之島香雪美術館が今開催している展覧会で、X線をあてて分かったことを反映させて見せるということをやっている、文化財の修理、理化学的知見で分かったこと等を展示に活かしている。知的好奇心を満たすような展覧会にしているという動きがある。
- ・ 中之島香雪美術館において久保惣の収蔵品を借りての展覧会、現在の法華絵の展覧会、マニュアルにない視点で展示をしている。以前には「柳橋水車図」の屏風絵も分析をして分かったことを伝えている。
- ・ 今までの常識とは違うことを知らせ、同じ物を見せているが、見せ方を変えることで、見る方の知的好奇心を刺激している傾向がある。

#### 【大西委員】

- ・ 第5回博物館協会賞で小樽市総合博物館が受賞。和泉市の成り立ちと久保惣の立ち位置、歴史的なものが、小樽市のまちのアイデンティティと詳しいところが比較できるのではないか。
- ・ 市民がどう関わるという点に興味があり、小樽市総合博物館には裏方ボランティアが多くいて、学芸員の補助をする、年1回のイベントだけに参加するという形で取り組んでいる。
- ・ これは和泉市も市民の活躍の場所として取り入れることができるのではないか。小樽市総合博物館が受賞しているのは市民参加の取り組みも含めてではないか。
- ・ 東京都美術館、アート・コミュニケータ「とびラー」というボランティアがいる。都の取り組みなのでまったく同じことは出来ないかもしれないが参考になるのでは。
- ・ 池上曾根弥生学習館（泉大津市）でボランティアをしているが、和泉市民もいる。体験型なのでアイデアが出しやすい。
- ・ 資料3、3ページ「多様な主体性との連携協力」に関わってくると思うが、市民の方には結構いろんなことをやる方がいるので検討いただきたい。

#### 【平田委員】

- ・ 展示の仕方や工夫、資料3・2pの「展覧会・教育普及の充実」に入れていくべきものではないか。ここで書かれているのは今までの企画展をこういう形でやります、と言う事になっている。新たな視点での企画の仕方をより充実・検討していく、というような書き方が良いのでは。
- ・ 旅行会社との連携強化だけでなく、インバウンドも含め来て頂く取り組み、旅行会社に知ってもらうことも広報の取り組みとして必要では。
- ・ 久保惣への行き方について、難波から30分強で行ける場所であり、21%が公共交通を使っているとデータがあったが、駅からのルートが分かりにくいという話もある。美術館との表記が

あるが、デジタルサイネージなどで久保惣記念美術館と入れていただくのが良いのでは。また久保惣のサインも必要ではないか。

- ・ 各種団体との連携強化のところで、大阪に在阪領事館が 10 数か所あるので、そことの連携を多様な主体との連携協力、パートナーシップに入れたほうが良い。
- ・ 市民ホール、市民創作教室、西棟の新たな活用の仕方を入れられないか。収益に繋がるようなユニークベニューな取り組みをしても良いのではないか。

#### 【高橋副委員長】

- ・ 版画を作ってみるなど、子どもが体験できるワークショップについても入れて欲しい。
- ・ 新館から本館への行きにくさ、動線が一旦戻る等が不便である。お手洗いもバリアフリーになっていない事や行く道が狭くて車いすが通れないということが気になった。
- ・ 内容ももちろん大事だが、来ていただくには施設の見直しも大事ではないか。
- ・ トイレが狭くて古く地下にあるのでは車いすは無理である。人に優しいと言っているわりには優しくないと感じた。全体を見て変えていかねばいけない。

#### 【井上委員長】

- ・ 将来に対して人をつなげていく事を考えていけなければならない。
- ・ 根本的なリニューアルが必要な部分も出てきている。そういったことも反映をお願いしたい。
- ・ 動線については、新館・本館の建築時期・時間軸のズレが行きにくさに繋がっているのではないか。

#### 【松本委員】

- ・ コンセプトの書きぶりがこういう方向で良いのかは分からないが、網羅したもので良いのか。逆に言えば網羅しなければいけないのか。美術館、博物館がやらなくてはいけないこと全て盛り込んでいるが、ここから欠けていることを探し出す方が難しく総花的になっている。
- ・ 例えば重点項目とか、この 10 年で重点的に取り組むとか、コンセプトなのでアクションプランとの関わりも出てくると思うので、ここから関連性のある書き方をしても良いのではないか。漫然と全部のことに重点を置いているように見えるが、できるのか、という話もある。
- ・ 10 年後を見据えているが、将来構想でいえば教育との連携は比重をもっと大きく、和泉市の単位なので連携が取りやすいので、次世代の和泉市を背負って立つ方への教育をもう少し膨らませても良いかと思う。

#### 【事務局】

- ・ 平面的に見ていくと、これを全部 10 年の中でやるのかという事になってくる。この中で人的リソースも限られているので、意見があった教育との比重をもっと置く方が良いとの意見も踏まえて、書いている中で特にここ数年度で実施できることの抽出は検討したい。

#### (3) 先行的取組について

【事務局】事務局より資料 4 を説明。

- ・ 前回会議以降、現在 4 つの部会を開催しており、その経過についてご報告をする。

#### ○リニューアル基本構想策定部会

- ・ こちらは、建築住宅部局を交えて開催している。
- ・ 目的としては、美術館の長寿命化に併せて、寄贈敷地の有効利用と収蔵品を活かした常設展の開催に対応するリニューアル基本構想を策定予定。
- ・ 課題点としては、施設・設備の老朽化の現状、収蔵品増加による展示室と収蔵庫の配置検討、寄贈敷地の有効活用、観覧動線、多目的室の必要性などが挙げられる。
- ・ 対応策として、現在所有するコレクションに対応した展示スペースや美術館に求められる新たな機能を踏まえ、単なる修繕ではなく、増改築を伴うリニューアルが必要になると考えている。
- ・ A3資料の第3章具体的内容として、(1) 拡張用地の活用とあるが、資料右下の赤丸箇所、寄贈敷地があるため、寄贈敷地の活用について検討する必要がある。例えば展示室、収蔵庫、多目的室の増設などを考えております。
- ・ 次に(2) 浮世絵を展示できる常設展スペースの確保と配置と記載しているのは、お客様が入られてすぐの新館展示室において浮世絵版画も展示できるような展示環境の整備を考えている。
- ・ その他、施設・設備の老朽化対策を行う事は当然のこととし、取組方針を具体的に実現するにあたり、単なる修繕ではなく、施設全体のリニューアルについてまとめたいと考えている。

#### ○美術館のリソースを最大限に使いこなす部会

- ・ 学校教育、政策企画、商工観光、健康づくり推進部局を交えて開催している。
- ・ 目的としては、まちづくり、教育や観光、企業、国際交流、医療福祉など文化行政の枠を超えて、地域の多様な主体との連携・協力を行う仕組みや施策について検討することである。
- ・ 資料4、P4で説明する。小・中学校の教員の方々や美術部員の方と美術館との連携や、高橋副委員長からも前向きな意見を頂戴したが、企業家プレミアムクラブの創設、また、井上委員長の桃山学院大学の学生に気軽にお越しいただけるようなキャンパスメンバース制度の検討などである。
- ・ 資料4、P5には、教育、大学、企業、医療福祉との連携について、取組の方向性を記載している。
- ・ 小・中学校による美術館活用の研究・検討として、教員の方々や美術部員の方々との連携、桃山学院大学とのキャンパスメンバース制度については、双方がWIN-WINになるような検討を行ったうえで、実証実験とアンケート調査を実施していく。
- ・ 企業家プレミアムクラブの創設については、商工会議所の役員の方々へのアンケート調査を行ったうえで、賛助会員制度の創設に向けた検討を行う。

#### ○広報・インバウンド部会

- ・ 資料4、P6であるが、商工観光、広報部局を交えて開催している。
- ・ 目的としては、多くの方に知っていただく広報宣伝と、豊富な収蔵品を活かした常設展の開催とインバウンド戦略を進めること。
- ・ 魅力的で多彩・豊富な収蔵品を有することから、外国人観光客に人気のコレクションー浮世絵ややまと絵などを活かした常設展の開催を行うなど、平日の来館者を増やすという観点からも旅行客の取り込みについて検討している。
- ・ X・InstagramといったSNSの情報発信やフォロワー数を増やすことや、紙ベースの広報から、SNSを活用したデジタル広告の割合を増やすこと、2025年度を美術館プロモーション year と

して取り組んでいく。

- ・ 現在、魅力映像コンテンツ動画（CM）を作成中であり、その映像も活用しながら、積極的なプロモーション活動を展開したいと考えている。

#### ○マネジメント強化と運営部会

- ・ 最後に、資料4、P7ページとなる。こちらは、政策企画部局を交えて開催している。
- ・ 目的としては、ビジョン達成に向けた、組織マネジメント強化を果たすための手段について検討するものである。
- ・ 課題としては、美術館に求められている多様な役割に対して、市職員が財団職員を兼務しており、かつ財団に専門性を持つ人材が不在であることが挙げられる。
- ・ 対応策としては、美術館の根幹となる調査・研究・収集業務は市の学芸員が担う必要があるものの、施設管理業務や、広報宣伝業務など、専門性のある民間企業へ委託することについても検討する必要がある。

#### ○リニューアル基本構想策定部会について

##### 【高橋副委員長】

- ・ 利用出来るものは全て土地も含めて、頂いた敷地の活用はできていなかったと思うので、是非進めて欲しい。

##### 【久保委員】

- ・ 拡張用地について、今後、美術館用地が広がるなどの変更もあり得る。この先のことも考え今回はここまで進めるという事で進めたほうが良い。
- ・ 本館と新館のジョイント部分の庇の問題。その間の中庭が必要なのかどうか。法的な部分もあるが根本は収蔵庫が足りてない問題がある。現実には中庭の問題が先かもしれない。長期的な話と直近の話と両方考えていかないといけない。
- ・ 企業は生まれ変わるが、施設は未来永続的にあるものなのでそれを残していくためのコンセプトをここでやった方が良い。
- ・ 時間軸であのまちが出来ていて、工業地域から商業地域に代わってきた。臨海部の企業が地震による津波対策で内陸に移動している。自然の流れ、時間軸の中で企業の誘致、従業員が増え、商工会議所の会員も増え、美術館が市のコミュニティとして使われていく事によって商工会議所との連携も図れる。旧の人たちも大事だが、新しい人達をどう取り込んでいくかも重要。
- ・ 和泉市、住宅地として人口を増やしてきていて、住みやすい街としても全国ランキング入りしている。新しい人達の入りやすさが大事。
- ・ 市民、企業が受け入れられること、長短のスパンで考えないといけない。

#### ○美術館のリソースを最大限に使いこなす部会について

##### 【井上委員長】

- ・ 地域貢献として大学と美術館が連携して何かできないかと思っている。美術館のリソースを最大限に使いこなすという連携・協力ができればよい。
- ・ 地域の経済成長を含めて考えていくことになっているが、現場でも文化庁が言っていることもすっかりしておらず、文化観光についてはこれから確認をしながらやらなければいけないと思

っている。そういった面も含め美術館と大学ができること。和泉市に関しての地域貢献を考えているところである。

- ・ 大学の留学生の傾向で、少し前は欧米が多かったが、最近では東アジア、東南アジアに変わってきている。

#### 【平田委員】

- ・ 国際交流について、現在多くの留学生が大阪に来ているので、その留学生を久保惣に来ていただくような仕組みを構築することや、ファンになっていただいてSNSで発信することも期待できる。一度検討いただきたい。

#### 【高橋副委員長】

- ・ 商工会議所として協力していきたい。

#### ○広報・インバウンド部会について

##### 【井上委員長】

- ・ 関西万博では呼び込む部分が厳しいと感じる。動画も作っているとのことであるが、多言語での表記が必要だと感じる。

##### 【平田委員】

- ・ インバウンドのお客が増えていくことを見通すと、R7年には1,500万人、カジノ以降では2,000万人を目指している。R5年は実数が出ているのでの980万人を使っていたらいい。
- ・ ツーリズムエキスポが東京で開催していて150~180万人の来場者があるので、動画も作成しているのであれば、大阪が借り上げているブース中において上映したほうが良いのではないか。

##### 【松本委員】

- ・ 50周年を見据えながら、国際的なサミットを開催しても良いのでは。例えば浮世絵サミットなど。海外や国内の著名な研究者などを呼んで、お金はかかるが、そういう方や大学関係や一般の方を交えてシンポジウムを開催し和泉を知ってもらう機会をつくる等、何かの記念の年に1回くらいは強引にでも呼ぶ機会を作っても良いのではないか。

#### ○マネジメント強化と運営部会について

##### 【井上委員長】

- ・ 昨今の文化財・博物館の法律改正で、まちづくりや観光までミュージアムがやらなければいけなくなった。マネジメントの専門性を持つ人が不在で学会でも課題となっている。必要だと認識していても、どのように人材育成をしたら良いのか難しい部分もある。
- ・ 公益法人制度も変わってきており、組織マネジメントの強化も必要であるが、人も金も付けられない現状がある。強化の方向にもっていききたい。
- ・ 交通の悪さがあるので、足立美術館のような旅行会社の商品としてパッケージ化できないかとも思う。足立美術館は庭園の魅力があるのでそれに匹敵する魅力をアピールする必要もあるだ

ろう。

- ・ 自治体の財政状況を考えると指定管理については、一部でもやらざるを得ない部分も課題としては考えられる。

## 5. その他

- ・ 第4回：令和6年12月3日（火）午後3時～午後5時（終了予定）、場所 市役所3階 庁議室。

< 終了 >